

嬉野医療センター

基本理念



「命と心をつなぐ医療」の実践には、患者の身体的苦痛を取り除くだけでなく、積極的苦痛も理解し和らげる努力が必要である。また、患者や家族と良好な信頼関係を構築し、安心して治療を受けられる環境づくりが大切である。

国立病院機構嬉野医療センターは、昭和 12 年に創設された嬉野海軍病院に端を発し、終戦後の昭和 20 年 12 月国立嬉野病院として再出発しました。その後、平成 12 年に国立療養所武雄病院と併合。平成 16 年 4 月国立病院の独立行政法人化によって、国立病院機構嬉野医療センターとなりました。全体で 399 床（感染症 4 床と一般病室 395 床）を有する病院で、新病院では緩和ケア病棟を病院の最上階に新設して、嬉野の街が一望できる病室になっていて、身体的にも精神的にも患者に寄り添ったケアをおこなっております。

旧病院にもあったドクターヘリ専用のヘリポートや併設の附属看護学校などは全機能が移転し、病院本棟高層建築の屋上にヘリポートを設置して、県西部の高度医療や救急医療を担う拠点として整備されます。

【施設概要】

1. 所在地：〒843-0393 佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲 4279-3
2. 特徴：がん診療連携拠点病院、地域災害拠点病院、病院機能評価認定、BFH 認定施設
3. 診療科：23 診療科

【外科系】外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、歯科口腔外科

【内科系】呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、リウマチ内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科

【外科系・内科系以外】総合診療科、小児科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、麻酔科・緩和医療科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、救急科、病理診断科

病床数：入院：全体 399 床 内訳：395 床（一般）／4 床（感染症）

4. 薬剤師数 15 名

薬剤部長 1 名、副薬剤部長 1 名、主任 6 名（うち治験 1 名）、薬剤師 7 名、助手 2 名

5. 主な業務

（ア）調剤	入院 619322 枚/年、外来院内処方 6829 枚/年（院外処方率 89.1%）
（イ）注射	入院 68852 枚/年、外来 13632 枚/年
（ウ）薬剤管理指導件数	6752 件/年（563 件/月）
（エ）無菌製剤処理料	I；3202 件/年（うち閉鎖式使用 108 件/年）、II；54 件/年
（オ）外来化学療法加算	2069 件/年
（カ）外来腫瘍化学療法診療料	2736 件/年
（キ）病棟薬剤業務	実施（実施病棟数 10 病棟）
（ク）チーム活動	ICT（感染対策防止加算 1）、NST（加算あり）

6. 特徴的な業務 治験と連携して治験薬の調剤・払出、調製を実施、
外来患者指導（対象；初回抗がん剤導入患者）
バイオ後続品導入初期加算（導入時患者説明）
7. 年度の取り組み 持参薬鑑別後の処方代行入力の拡大
8. システム・設備

項目	有・無
電子カルテ	○
自動錠剤分包機	○
散剤監査システム	○
水剤監査システム	○
散剤分包機	○
安全キャビネット	○
クリーンベンチ	○
その他（自由記載）	
化学療法調製後の監査システム	○

薬剤部の目標と病院の目標

【令和2023年度 病院運営目標】

1. 地域における当院の役割を自覚し、信頼される医療を提供する
2. 安全管理・感染管理の徹底する
3. 職員の働き方改革と健康管理を充実させる
4. 多職種の間・協力によりチーム医療やタスクシフトを実践する
5. 科学的根拠に基づいた医療と医学の進歩へ貢献する
6. 次世代を担う若い医療従事者を育成する
7. コンプライアンス遵守を徹底する

【令和2023年度 薬剤部目標】

1. 薬学的管理及び指導の充実
2. 入院から外来まで安心して服薬できるように、薬薬連携を充実させる
3. 学会発表後に論文作成を目標とする
4. 薬剤部業務の改善